カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
大水文隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

・一般　現代の奴隷制度である人身売買の根絶
・宣教　アジアにおけるキリスト者共同体の宣教
・日本　平和に貢献する諸宗教間の交流と対話

第2バチカン公会議開会の頃の思い出

1962年10月11日から65年12月8日まで開催された第2バチカン公会議は、4つの会期に分けられる。山内清海師がサン・スルピス司祭会会員としてローマに留学されていた時期は62～64年、公会議開会から第2会期の頃までであった。当時の思い出を書いていただく。

聖ヨハネ23世教皇

ヨハネ23世と第2バチカン公会議

1958年10月28日、先にも後にも「彼以上の教皇は出ないだろう」とまで高く評価されていた、偉大な教皇ピオ12世の後継者として選ばれた方は、少なくとも教皇候補者としては、ほとんど無名に等しかった、当時のベネチアの大司教、アンジェロ・ジュセッペ・ロンカッリ枢機卿だった。すでに高齢者だった新教皇は、「ヨハネ23世」を名乗り、世界中の人々を驚かせた。

さらに新教皇は、着座1年後の1959年には、公会議の開催を宣言して、再度人々を驚かせた。しかし3年後の1962年10月には、予告通り、第2バチカン公会議が開催された。しかもこれは、第1バチカン公会議（1869年）以来、100年振りの、まさに歴史的な大快挙でもあった。

この公会議には、出国許可が出ない共産圏諸国以外の世界中の国々から、公会議史上最多の、2540人もの教父たちが参集したが、それにプロテスタント諸派からも、オブザーバーとして招かれた多くの代表者たちが加わって、ローマ・聖ペトロ大聖堂で、教会史上最大規模の公会議が、荘厳に開会された。

第2バチカン公会議中のローマの雰囲気

この公会議のもう一つの特徴は、公会議に出席された教父たちに同伴した個人的な顧問神学者たちの他に、バチカンから公会議のために特別に任命された顧問神学者たちが、一同に集合したことであろう。この時ローマでは、まさにカトリック教会の、信仰と知性の調和した一大集合体が形成され、教会全体が、まさに興奮のるつぼと化したと言っても、過言ではなかった。

このような歴史的状況の中で開催された第2バチカン公会議の「第1会期」（1962年10月～12月8日）と、翌年の第2会期（1963年9月～12月4日）中、ローマで学位論文を執筆中だった私には、最高の霊的・知的刺激となり、理想的雰囲気の中で研究を続けられたことは、私の生涯の宝であり、誇りでもあった。

公会議中、私は毎日のテレビや夕刊紙などで、できるだけ忠実に会議の進展状況に注目していたが、特に有益で楽しかったことは、日曜や休日に、ローマ市内の教会やカトリック系の学校などで行われていた著名な顧問神学者たちによる公開講演会だった。私は、当時特に注目されていた、Y・コンガール、H・ド・リュー・バック、M・D・セェニュやK・ラーナー、それに後で教皇ベネディクト16世となられるラッツィンガーなどの講演を欠かさず聞いた、と確信している。特に第1会期後半から、ただ一人の信徒として招集されたフランスの哲学者ジャン・ギトン教授が、私の論文の指導教授の親友であったことから、何度か食事を共にし、論文や研究についても相談し、励まされた思い出がある。

山口愛次郎大司教のこと

この公会議には、日本からは14人の司教様たちが出席されたが、山口愛次郎長崎大司教様は、ホテルに滞在されていた他の日本人司教様方とは別に、バチカン広場のすぐ傍にあった聖アウグスティヌス会本部に宿泊されていた。私は、すでに故人となられた深堀栄市、川原義和両師とともに、土曜日ごとに大司教様の宿舎を訪れ、会議中の資料の整理を手伝っていたが、いつも静かに会議の資料を読みふけっておられたお姿が、今も忘れられない。またわれわれが整理する書類にはほとんど赤鉛筆の線が引かれていて、熟読された跡がはっきりと分かった。

山口大司教様についてはもう一つ驚嘆させられたことは、彼の達者な語学力であった。ある時、テレビで放映される国際記者会見に、長崎大司教として出演されたが、「一緒に来なさい」と言われるままに、私は何か手伝うことでもあるのかと思って会見場に同行したことがあった。大司教様はまず、特に被爆後の教区の状況についてイタリア語で所信を述べられ、その後、各国の記者たちから質問を受けられたが、大司教様は、記者たちが語る英・仏・伊語の言葉で、しかも流暢に応答された。私はあらためて、大司教様の衰えを知らない語学力に感動させられた。

長崎教区司祭　山内清海

福者パウロ6世教皇を囲む日本司教団

提言推進会議の議員任命

「教区シノドス提言推進会議」議員が、7月10日付で任命された。また、会議で取り扱う議題を準備する同推進会議中央委員会が組織され、山脇師（委員長）、中濱師、紙﨑師、眞浦師、下窄師（事務局長）が委員を務める（事務局秘書 宮崎善信氏）。

教区長
高見三明大司教

司教総代理・顧問
山脇　守（長崎北）

法務代理
古巣　馨（大司教館）

教区顧問
久志利津男（長崎中）
橋本　勲（長崎南）
葛嶋秀信（佐世保）
山田　聡（平　戸）
橋口朝光（上五島）
中村　満（下五島）
三村誠一（司教任命）
下窄英知（事務局長）

部長
中濱敬司（信仰養成）
紙﨑新一（福音化推進）
眞浦健吾（教会奉仕者）

委員長
下山盛朗（典　礼）
大水文隆（広　報）
大山　繁（信仰教育）
工藤秀晃（青少年）
谷脇誠一郎（生涯養成）
岩村知彦（平和推進）
川口昭人（人　権）
岩崎晋吾（福　祉）
岡　秋美（召　命）
辻原達也（教会奉仕者）

地区評議会議長
林田殉二（長崎中）
田川孝弘（長崎南）
黒崎勝郎（長崎北）
山内茂雄（佐世保）
松本久幸（平　戸）
下田浩二（上五島）
葛島幸則（下五島）

地区評議会女性部
川原由美子（長崎中）
五島　忍（長崎南）
松本　恵（長崎北）
小出惠子（佐世保）
小川ふい子（平　戸）
野下敏美（上五島）
葛島志代美（下五島）

修道会代表
ジェブーラ・エウゲニウス（神言会）

大山ミサエ（お告げ）

教育施設代表
西　経一（神言会）

福祉施設代表
松﨑ヒロ子（純　心）

青年代表
今田亜希（長崎北）

平和を実現する人は幸い

長崎南・北地区で研修会

長崎南地区評議会は8月16日（日）、中町教会で〝主の平和実現〟のための集いを行いました。

第1部は午前11時より、浦上教会からの被爆マリア像を迎える式と感謝のミサです。キリスト教伝来から迫害・潜伏・信徒発見・再宣教・被爆・終戦と、順境の時も逆境の時も日本の教会と共にいてくださったマリア様に感謝をささげました。

その後、先の大戦で犠牲になったすべての人々の永遠の安息を願いロザリオをささげ、第2部は紙﨑新一神父様（植松主任）に『被爆・終戦70周年の節目に』のテーマで講演をお願いしました。戦時下における国や社会と教会の関わり、「社会の中で国の責任を私たちも共に担う」とのお言葉に、今、私たちが何をするべきか、何ができるのかと考えました。

第3部は、高見三明大司教様司式による『平和のためのミサ』。説教の中で、高見大司教様と藤井清邦牧師様（長崎キリスト教協議会議長）による『広島・長崎キリスト者共同平和アピール』が宣言されました。

日本は、新たな争いへと向かう危険性が危惧される状況です。被爆・終戦70年の節目に、平和の尊さをもっと真剣に考えなければと思います。

長崎南地区評議会

長崎北・南地区両評議会は8月30日（日）、滑石教会で合同研修会を開催、約200人が参加しました（写真）。

高見大司教様の意向で、被爆マリア像の安置式に始まり、松田清四朗神父様（湯江主任・コンベンツアル聖フランシスコ修道会）の講演会を開きました。テーマは「平和を実現する人――瞋（いか）りをのり越えて」。

「イエス様は、息を吹きかけて、弟子たちに使命をお与えになった。人間は、息をすることで自分に帰ることができる。『自分に帰る』とは、意識して『息』呼吸すること。

さて、『瞋り』はあらゆる病気の根源である。誤解され、侮辱され、耐え切れずに怒り狂うことがある。まずは『瞋りの炎』を消してその状況から自分を元に戻し、癒やしの静けさを持っている『息』をしてください。そしてその中に神の声を聞いてください。神の恵みはすぐそこに、現実にある。私たちは、生きている限り『瞋りの炎』を持っている。それを慈しみの『息』に変えてください。

最後に、私の罪を赦してください。私も人を赦します。私の嫌いなあの人が幸せでありますように。私の嫌いなあの人の願いが叶いますように。迫害する人のために祈りと息をしてください。」

私の心を見透かされたようなお話でした。

滑石小教区評議会
議長　鈴木　博

ほしかげ

今年度も半ばを過ぎた。教区シノドス後の最初の半期は、教区としては司祭研修会と第1回教区シノドス提言推進会議を開催したが、新たな歩みの始まりを具体的に信徒に感じてもらえているだろうか。せめて、教区評議会の活動方針『神のいつくしみを生きよう』という言葉が浸透してくれればと願っているが、現状はどうだろう▲地区や諸団体においては、教区シノドスの公式提言に応えるため、独自の目標を掲げたところもある。より現場に近いだけに、新たな展望が開けるのではと期待している▲率直に言わせてもらうと、我が教区の現状と展望は大変厳しい。教区の人口減少は著しく、司祭・修道者の召命の激減はもとより、教会の存続が危ぶまれる小教区・巡回教会も少なくない。教区全体が縮小していくことは避けられない情勢だ▲だから今こそ、教会とは何かを見つめ直したい。我々はパン種（マタイ13・33）、狼の群れに放たれた羊（同10・16）であって、そもそも大きくもなく力もないのだ。唯一の強みはキリストと結ばれていること、ただそれだけ▲教皇フランシスコは、今年12月8日無原罪の聖マリアの祭日から来年の王であるキリストの祭日までを『いつくしみの年』とされた。神のいつくしみを生きる共同体の深化の年としたい。（S）

聖アウグスチノ修道会とは

トルコライスはお好きですか

聖アウグスチノ修道会司祭　平野 哲也

日本における修道会の歴史

「もしもし、聖アウグスチノ修道会でございます。」「あの～、修道会に興味がありまして、修道会案内の本を見ていたら五十音でもそうでしたが、アルファベット順でも、アとAで、そちらの修道会の名前が最初に目に留まったものですから～。ちょっとマイナーな修道会ですよね。」「えっ!? あ、は～ぁ。」「ところで、お宅の会を一言で言うとどんな修道会ですか？」「そうですね～。長崎名物の『トルコライス』のような修道会でございます。スパゲティとトンカツとカレーチャーハンと野菜が一つに盛られたような……。」「はぁ～っ!?」

――どこから来て、何をしていますか？

ハリウッド映画の『ロッキー』で有名になったアメリカのフィラデルフィア市の郊外にあるヴィラノバからです。1952年、3名の会員が来日し、長崎の浦上地区の城山に修道院と教会を建てました（55年）。その後、聖マリア学院（日本初の小教区学校）を開校し（56年）、幼きイエス会の助けのもと、幼・小・中の子供たちの教育に力を注いできました。現在は、お告げのマリア修道会の協力を得て、保・幼・小を通してキリスト者以外の子供たちも含めて教育に携わっています。それから、1959年には福岡の笹丘に修道院、小教区、幼稚園が建てられ、サン・スルピス大神学院も近く、修練院もありました。

東京オリンピックの年（64年）には名古屋に港教会が建てられます。名古屋港のすぐ側で、伊勢湾台風の数年後、長屋に住んでいる貧しい人たちも多く、また、貨物船に乗って日本に物資を運んでくる船員たちの世話、長崎方面から金の卵として都会に出て来たカトリック青年労働者たちとその家族を司牧するために、2つの集合住宅と2つのマンションを建て、また、その子供たちを預かる幼稚園も併設され、聖心会が、小教区活動や外国人司牧にも携わってくださいました。

その後、1968年には東京の下町・江戸川区の工場地帯に小教区を建て、現在は、ディズニーランドに近い同区の葛西に移転（85年）し、多国籍の人たちの司牧や炊き出しなどの社会活動にも携わっています。

――なぜアメリカからですか？

長崎大司教区の山口愛次郎大司教様から宣教者派遣の要請があり、それに応えてのことでした。キリシタン時代に長崎で働いていたアウグスチノ会に、再び長崎の地に戻って来てほしいという大司教様の強い願いからです。

――キリシタン時代？

はい、アジアとは16世紀の半ばから関わりがあり、フィリピンへ最初に福音を伝えたのはアウグスチノ会士です。日本とは、1584年に2人の会員がマニラからマカオへ向かう途中に、嵐に遭い、偶然に平戸へ漂着したのが始まりです。その後、マニラに戻り、1602年、スペイン人宣教師が再来日し、大分県豊後地方の臼杵に教会と修道院を建て、宣教活動が始まりました。

また、1612年には、長崎の眼鏡橋付近（古川町）にサン・アウグスティン教会を建て、『第三会』を創設し、病人や貧しい人たちの世話をし、福音宣教に励みました。しかし、1614年には宣教師追放令が出され、この教会は取り壊されてしまいました。厳しい迫害の中、アウグスチノ会士たちは、第三会員たちと共に活動を続け、多くの会員が大村の鷹島や長崎の西坂で殉教していきました。その数600人に及ぶともいわれています。その中には、福者トマス次兵衛神父（金鍔）や長崎の聖マグダレナが含まれています。金鍔神父は、日本人初のアウグスチノ会司祭になり、魔術を使うバテレンとして恐れられ（長崎の民話に残されている）、谷や洞窟に潜伏しながら宣教活動を続けました。

しかし、1637年、彼とミカエルという日本人神父の殉教によって、日本でのアウグスチノ会の活動も幕を閉じました。

修道会のカリスマ

――そんな歴史があったなんて知りませんでした。会の創立者は誰ですか？　あの『告白録』を著した聖アウグスティヌスですか？

そうですね～。彼は、修道会創立に直接に関わったとはいえませんが、間接的に関わったといえると思います。386年、33歳の時、ミラノで回心した彼は、聖アンブロジオから洗礼を受け、その後、故郷の北アフリカ（今のアルジェリア）へ戻り、父親の家を修道院に改築し、友人たちと共同生活を始めました。彼が理想としたのはエルサレムの初代教会共同体の姿でした。自分の意に反して司祭に叙階された後も修道生活を続け、ヒッポの司教に叙階されてからも教区司祭たちと共同生活を続けました。

397年頃に記した『聖アウグスチノの会則』が彼の精神をよく表しています。「親愛なる兄弟たちよ、全てにこえて神を愛し、そして、兄弟を愛しなさい。これは、われわれに与えられた第一の掟だからである。修院で生活するあなたがたに、次の事柄を守るように命じる。あなたがたがここに集まっている第一の目的は、この修院において、魂と心を一つにして、専ら神に心を向け、互いに和合して生きることである。何物も自分のものとは言わず、全てのものを共有にしなければならない……。使徒言行録に、『彼らは全てのものを共有し、各々の必要に応じて分配していた』とあるからである」（会則Ⅰ、1～4）。

また、ヨハネ福音書講話の中では、「神を、『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして』愛すべきであり、隣人を『自分のように』愛すべきなのです。これらのことは常に考えるべきこと、常に瞑想し、心にとめ、実行し、果たすべきことがらです。神への愛は命令の順序では先ですが、隣人への愛は実行の順序では先です。……ヨハネは明らかに、『目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません』と言っています」（17、7―9）。

このように聖アウグスティヌスにとって修道院は、キリストの掟を実際に生きる場であり、共同生活とは、愛を学び、福音を共に生きることでした。聖書（み言葉）を中心にした生活の中で、「共に祈り」、「食事をし」、兄弟愛によって全ての物を「分かち合い」、お互いの友情の中に神を見いだし、そして、その実りをもって、キリストの体である教会に「奉仕する」ことが聖アウグスティヌス自身の生き方でもありました。この精神を生きることが、うちの会の存在理由であり、カリスマです。

実際、このような霊性の上に、今の聖アウグスチノ修道会が創立されます。

1243年、教皇イノチェント4世は、イタリアのトスカーナ地方で隠修生活を送っていた複数の修道者たちのグループに『聖アウグスチノの会則』に従う修道会として一つにまとまるように書簡を送り、その呼びかけに応えた隠修士たちによって、1244年、修道会が誕生しました。1256年にも、教皇アレキサンデル4世が新たに呼びかけ、それに複数のグループが加わり、『大合同』といわれることが起こり、修道会はさらに大きくなっていきました。また、当時の福音的な清貧運動やヨーロッパの商工業化、都市部の人口増加によって教会と時代の要請に応える形で托鉢修道会の一つとして生まれたアウグスチノ会は、現在もキリストの体である教会や社会の必要に応えて奉仕し、福音を生きることを使命としています。

「色んな意味で、うちはスパゲティとトンカツとカレーチャーハンと野菜が一つに盛られ、滋味豊かなハーモニーとバランスのとれた『トルコライス』のような会です。ところで『トルコライス』はお好きですか？」

ド・ロさまと祈ろう！

旧出津救助院で歌と祈りの集い

8月23日（日）旧出津救助院でコンサートと祈りの集いが行われた。指導と指揮・草野延代さん、コーラス・お告げのマリア修道会修練者8人、フルート・草野雪音さん、ギター・白石仁美さん。地元の方々の他にシスターたちの関係者、観光客ら80人ほどが集まり、救助院1階はほぼ満杯と盛況だった。

1部はミニコンサートで修練者たちのコーラスを楽しみ、2部は参加者も共に歌いながら「テゼ」の祈りの集い、3部のお茶会へと続いた。参加者たちは特に、2部の祈りの集いに深い感動を受けた様子。積極的に歌って祈りを深め、ローソク奉献（写真＝吉永友愛さん撮影）では、神への思い、願いなどをささげた。キリスト教でない方々には戸惑いがあるのではとの懸念をよそに、「繰り返し祈ることで心に残った」「簡単で参加しやすかった」「友人と喜びを分かち合えた」などの感想が寄せられた。

お茶会では、修練者手作りのゆうこうケーキ、ド・ロさまの蕎麦クッキー、ド・ロさまのお茶をいただきながら、話が弾んでいた。

純心聖母会の修道院が落成

島原半島で宣教と癒やしの場を目指す

島原市上の町に純心聖母会島原修道院が完成、島原小教区主任の山田良秋師司式により、9月1日（火）落成式が行われた。同修道院は、2013年3月をもって閉園した学校法人第二純心学園聖和幼稚園の跡地に建てられ、研修棟も併設されている（写真は小聖堂）。

現在、半島全体にまたがった島原小教区の信徒数は140人、68世帯。高齢者が多く、他は転勤族。今後、小教区への奉仕と地域の方々との交流の中で、宣教と癒やしの場となることを目指す。

かつて徹底的に弾圧され、キリシタン復活は不可能と思われていた島原に、配流先の金沢から帰還した浦上信徒の家族が住み着いた。1932年、キリシタンたちの牢であった島原城内二の丸に「二の丸教会」が建ち、最初の主任司祭として山口宅助師が着任。島原の教会は、浦上信徒と早坂久之助司教、教区司祭たちの手によって復活を果たした。ところが、社会情勢を背景に立ち退きを迫られ、1940年に上の町（現島原修道院）に移転した。「聖和礼拝所」の碑がこのことを記憶している。

長崎大司教区主催
韓国巡礼募集のお知らせ
日　程　12月23日（水・祝）～12月26日（土）
訪問先　ソウル大司教区、テグ大司教区
ソウル…殉教地、司教座ミョンドン聖堂の巡礼
テ　グ…小教区での交流会、降誕夜半ミサ参加
テグ大司教司式の降誕ミサ参加
定　員　30名（11月5日、もしくは定員になり次第締め切り）
その他　事前研修会あり（後日連絡）
日程・旅費の詳細は10月初めに教区ホームページに掲載
教区内の小教区、修道院には別途お知らせ
お申込みは10月5日（月）から受け付けます
申込・問合せ　教区本部事務局（担当　宮崎）
TEL 095 - 842 - 4450　FAX 095 - 842 - 4460
メール cnkh211@nagasaki.catholic.jp

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　マリア　大島睦子
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

精道三川台小学校（男子校）
本校はカトリックの教育理念に従って全人格的な成長を促し、本当の幸せを知り、味わい、そして周りの人々にその幸せを与えることのできる子供たちを育成します。
児童募集中
校訓：①自由と責任　②ポスムス（POSSUMUS）
③英雄的瞬間
〈平成28年度入学に関する日程〉
募集人員／男子30名　選考方法／審査・保護者面接

	入学審査	出願期間
第1回	平成27年11月14日（土）	平成27年9月27日（日）～11月12日（木）
第2回	平成28年1月30日（土）	平成27年12月11日（金）～平成28年1月29日（金）
第3回	平成28年2月13日（土）	平成28年2月1日（月）～2月12日（金）

〈お問合せ・資料請求〉
〒852-8121
長崎市三川町1234-1
TEL.095-845-6846
http://www.seido.ed.jp/

戦後70年の沖縄平和学習

高校生9人が参加、戦争の悲惨さを実感

8月17日（月）から20日（木）、3泊4日で沖縄平和学習が行われ、長崎教区各地から高校生9人が参加し、平和について考える機会をいただきました。

17日の出発から大雨、その影響からか飛行機が遅れるというアクシデントに見舞われ、前途多難な始まりとなりました。沖縄に到着してからの平和学習はガイドの方と参加者の協力のもとで特に大きな問題もなく、自分たちが今享受している平和が、70年前の尊く大きな犠牲の上に成り立っていることを実感しました。

また、戦争の悲惨さや愚かさなどを、対馬丸記念館、首里城、戦中に使われ今も保存されている数々の防空壕（ガマ）、沖縄平和祈念資料館、ひめゆりの塔などを巡りながら数々の資料やガイドの方々の話を聞くことで、参加者がそれぞれ肌で感じました。

平和学習中にも、沖縄の空には戦闘機が飛び交っていました。高校生たちは空を見上げ、高台の公園から米軍基地を見下ろし、宿泊させていただいた沖縄愛楽園ではハンセン病の元患者さん方と交流し、資料館（写真）を見学しました。また、沖縄の豊かな自然にも触れることで、沖縄が抱えている基地問題の現状と本当の平和とは何かを考えているようでした。

参加者は3つのグループに分かれ、この学習で学んだことをさらに深め、年が明けて発表します。日程は未定ですが、参加者がこの学習で学んだことを聞き、それぞれが平和について考える良い機会となると思いますので、ぜひお越しください。

山内啓輔助祭

純心聖母会総会

「総会ニュース」を毎日発信

8月10日（月）から20日（木）まで、純心聖母会本部（長崎市三ツ山町）で、代議員・オブザーバー30人（ブラジルの共同体からも代表者が参加）の出席を得て第13回総会が行われた。

髙見三明大司教司式の開会ミサに続いて梶山義夫師（イエズス会日本管区長）の講話があり、会議は審議・選挙・審議の順で進行した。14日に総長と総顧問の選挙が行われ、次の会員が選出された。

総長　山野アヤ子
総顧問・副総長　村川　貞子
総顧問　木村美由紀
　　山田　幸子
　　山田　房惠

今回は6年ごとに開催される総会であり、菅原裕二師（イエズス会、ローマ教皇庁立グレゴリアン大学教授、教会法）の同伴を得て、修道会の過去・現在の分析資料をもとに、今後取り組むべき課題について、熱く真剣な討議が繰り広げられた。

総会中は、ブラジルと国内の全修道院に「総会ニュース」を毎日発信し、修道院からは祈りとともに、力強い応援メッセージが届けられ、修道家族としての支えを励みに進められた。20日、髙見大司教主司式による派遣ミサの中で激励と祝福をいただき、総会は終了した。

第40回大村殉教祭

劇を通して歴史を振り返る

9月6日（日）大村市民会館において第40回大村殉教祭が開催され、650人余が参加した。

ミサに先立って行われたプレゼンテーションでは、植松・水主町両小教区の有志による劇が上演された（写真）。参加者の一人は「殉教・迫害だけでなく、潜伏キリシタンや教会による迫害についても演じられ、ともすれば被害者意識だけを持ちがちな私たちの信仰を見つめ直す良い機会になった」と語った。髙見三明大司教司式による記念ミサの後、放虎原（ばるー）殉教地に移動して、みことばの祭儀が行われ、多数の参加者が共に祈りをささげた。

今年度で閉鎖される大村市民会館に代わり、来年は9月4日シーハットおおむら・さくらホールで開催される予定。

長崎神学校創立150周年
記念ミサと祝賀会のご案内

◆ 記念ミサ
日時 12月20日（日）16時
場所 浦上教会

◆ 祝賀会（要申込）
日時 記念ミサ終了後
場所 浦上教会信徒会館
申込 氏名・連絡先・電話番号・人数を明記し、下記へ申込
締切 11月15日（日）

《問合せ・祝賀会申込》
長崎カトリック神学院
〒852-8114
長崎市橋口町10番7号
Tel 095-844-1096
Fax 095-840-0750
メール catholicseminary@yahoo.co.jp
院長　眞浦健吾

司祭不在の軍艦島で

信仰を支えたコンフラリア(2)

「家御堂」という言葉に郷愁が蘇った。第2次大戦の後、五島・水ノ浦小教区の巡回地であった「山ン田」（現在の繁敷）に教会はなく、村落で一番大きかった我が家が家御堂として7年間使用され、亡き父が宿老を務めたからだ。このことを軍艦島の宿老に話すと、一気に親近感が生まれ、独身の私をよく夕食に招待してくれた。

家御堂に、十字架ではなくキリスト像を置いた理由を尋ねると、「葬儀に多くの仕事仲間、隣近所の人たちが多数参列するので、お寺で行った。『お寺に十字架は似合いませんね』とお坊さんに言われキリスト像にしたところ、好意を示されたので、以来、宗教行事はキリスト像を使用するようになった」次第を語った。

軍艦島の家御堂の経緯について尋ねると、しばらく天を仰いだ後、おもむろに語り始めた。

――あるとき親友が病に倒れたことを伝え聞き、見舞いに行ったことがある。そのとき思わぬ言葉を耳にした。「告解（ゆるしの秘跡）をしたか。何十年も告解をしとらんとよ。」とっさのことで返す言葉に困っていると、「すまんな、心配せんでもいいよ」と言われた。友人を見舞った1週間後、容体が急変し亡くなったことを知らされた。友人の言葉が耳から離れなかった「告解をしたか」。

聖母の騎士修道院に知り合いの神父様がいたので、亡き友人のことを話すと、「司祭不在の禁教時代、キリシタンたちはコンチリサンを唱え神に赦しを願った。これが『完全な痛悔』です。あなたも緊急の場合、完全な痛悔を起こすように勧めなさい。そして祈りなさい」と教えていただいた。その後、数名の信徒に呼び掛け、日曜日ごとに自宅に集まり一緒に祈り始めたのが「軍艦島の家御堂」の起源だ――

聖水入れ

宿老の先唱は、長く尾を引くような独特のリズム感があり、そのリズムに合わせるかのように体を前後に大きく揺らしながら、夢心地で祈ったものだった。

日曜日の祈りのメニューを紹介しよう。ロザリオの後、「ミサにあずかるを得ざる時の祈」「完全なる痛悔の祈」「救霊に係るすべての恵みを求むる祈」など、ほとんどの方が長い祈りを暗唱していた。祈りが終わると出欠を取った。祈りに参加した人は○印、仕事で参加できなかった人は△印、欠席者は●印を付け、一覧表にして壁に張った。宿老は毎月一度、聖母の騎士ヘルルドの水を汲みに行き、聖水代わりにしていた。その水で洗礼を授け、ラテン語文は聖母の騎士の神父様から指導を受け流暢であった。

「エゴ　バプチゾ　イン　ノミネ　パトゥリス　エト　フィリィイエト　スピリトゥス　サンクティ」宿老は自筆捺印し、洗礼証明書を渡しながら、所属する教会に必ず提出するように助言した。

神ノ島教会　木場田友次

＊写真は長崎市の許可を得て撮影

ベルナルド冷水義美神父

（フランシスコ会）

8月23日胃がんのため聖フランシスコ病院で逝去。88歳。

1927年新上五島町折島生まれ。46年フランシスコ会に入会、着衣式。47年初誓願。51年7月14日荘厳誓願。52年浦和教会（さいたま教区）で司祭叙階。54年ローマ聖アントニオ大学学士課程修了。57年グロッタフェラタ聖アントニオ大学教育学修了。

その後、聖フランシスコ小神学校舎監、北浦和修練院、本原教会助任、同主任、長崎修道院院長、宇都宮修道院付教会主任。82年佐野教会、84年栃木教会、87年大田原教会、99年長崎修道院、聖フランシスコ病院チャプレン。

本原教会出身の中野健一郎師（大野主任）は、「冷水神父様とは私が大学生の頃に初めてお会いし、以来よく声をかけてもらいました。笑顔で迎えてコーヒーを入れてくださったり、音楽が好きでオルガンを弾いて聴かせてくださったり、受けたものがたくさんあります」と語った。

通夜は8月23日、葬儀ミサ・告別式は8月24日本原教会で執り行われた。

ヒルデガルダ生田洋子修道女

（純心聖母会）

8月13日聖フランシスコ病院で逝去。78歳。

1937年新上五島町生まれ。大曽教会出身。58年本会修練院に入所。60年初誓願、69年終生誓願。初誓願宣立後から、本会の使徒的活動の場である純心女子学園（長崎・鹿児島・東京）の中学・高等学校で長年、教育に携わり、家庭科と宗教を担当した。

退職後は、石神井のイエズス会無原罪の聖母修道院（黙想の家）での奉仕や八幡町教会のカテキスタとして誠実に活動した。何事にも熱心に取り組み、あらゆる面で妥協することなく徹底していた。反面、細やかな心遣いで生徒たちや父母に接し慕われた。

6月中旬、体調不良を訴え、聖フランシスコ病院で受診したところ、全身性転移性がんと診断され、そのまま入院となった。病状の進行が速く、6月末には一般病棟からホスピスへ移動した。病床で身動きのできない状態でも常に感謝を口にし、苦しみを最期まで十字架上のキリストと共にささげていた。55年の誓願生活であった。

通夜は8月14日、葬儀ミサ・告別式は8月15日本部聖堂で執り行われた。

お知らせ

〈長崎カトリック神学院〉
本紙6月号1面既報の神学校創立150周年記念ミサの日程は、「いつくしみの特別聖年」開年ミサの開催（12月13日）に伴い、12月20日(日)に変更となりました。

ぶどう園

▼第137回クルシリヨ
10月9日(金)～12日(月)、イエズス会立山修道院。問合先・永山悦子。TEL 095-879-3611

▼島原・天草殉教福者記念ミサ『剣を鋤に、槍を鎌に』
10月11日(日)13時、原城本丸跡。悪天候時は島原教会。問合先・島原教会。TEL 0957-62-2952

純心聖母会島原修道院。TEL 0957-62-2092

▼日本カトリック難民移住移動者委員会主催全国研修会 in 佐世保『一つの船に乗って行く』
10月20日(火)～22日(木)、三浦町教会。

▼牢屋の窄殉教祭
10月25日(日)13時、牢屋の窄（五島市久賀島）。

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 11月12日(木)～18日(水)　（10/28締切）
- 12月10日(木)～16日(水)　（11/25締切）
- 1月14日(木)～20日(水)　（12/23締切）
- 2月11日(木)～17日(水)　（1/27締切）

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局（松尾）まで。
TEL 095-842-4450　FAX 095-842-4460

九州青年キャンプ

楽しく、そして〝真剣に〟

8月22～23日、カトリック鶴崎教会（大分市）で九州青年キャンプが開催され、長崎からは9人の青年が参加しました。

九州青年キャンプとは、那覇教区を除く長崎教会管区内の4教区（福岡・大分・鹿児島・長崎）が毎年持ち回りで開催するカトリック青年の集いで、さまざまな地域の青年が出会い、分かち合い、交流する場となっています。

今年は大分教区主催で「しらしんけん～見つけちみようえ 新しい世界～」のテーマで開催され、東京・大阪・高松教区の青年も含め47人が参加しました。「しらしんけん」は大分弁で「真剣に・一生懸命」の意味）。プログラムは授業形式で行われ、クイズをしながら大分県に関する特産物や発祥となったもの、カトリック史などについて学びました。授業の終わりには、「どのように信仰を深めることができるのか？」との問いから、自分が持っている信仰について分かち合いました。

また、お題に沿った写真撮影や発表、ロザリオ、バーベキューや交流会など、静かに祈ったり、楽しく語り合ったりしました。最後に班メンバーの寄せ書き付き思い出写真作りをし、浜口末男司教様司式の感謝ミサを大分教会で行いました。

このキャンプを通して、九州という近しい地域であること、感性も近いものを持っている青年同士が、同じ信仰のうちにつながっていることをより身近に感じました。私は、青年同士の気持ちが近く、過ごしていて和む雰囲気が居心地良いので、より青年同士の絆を深められる素晴らしい集いであると信じています。

来年は、福岡教区主催で開催予定ですので、興味がある青年はぜひ参加してほしいと思います。

小ヶ倉教会　橋本裕紀

大邱（テグ）派遣の神学生

大神学院に編入

姉妹教区締結に向けた交流の一つとして、昨年韓国の大邱大司教区から派遣され、福岡コレジオで学んでいたキム・ボム、イ・ハンウン両神学生が9月23日、日本カトリック神学院神学科2年に編入した。司祭叙階後は10年の任期をめどに、キム神学生（写真）は長崎教区へ、イ神学生は福岡教区へ派遣される予定。

キム神学生は、「神様と、祈りを通して支えてくださった方々」のおかげで編入できたことを感謝しながら、次のように抱負を語った。

「まだ日本語も足りないし、韓国とは違う新しい環境に対する不安があって、うまくできるかなと思っております。しかし自分自身のためではなく、神様と信者の皆さんのために日本に来たので、神様の導きが確実にあるはずだと信じています。神様が私をどんな道具としてお使いになるか分かりませんが、神様の道具にふさわしいものになるためにがんばりたいと思います。

今までは日本での生活のための準備でしたが、これからは本当の意味での日本教会への派遣生活だと思います。たとえ障害や困難があっても、面白く、そして楽しく日本の生活をしながら乗り越えようと思います。

信仰もあまり深くない私ですが、神様と信者の皆さんの支えと祈りで、生きていくことができます。これからも私だけではなく、一緒に来たイ神学生をはじめ、召命に呼ばれているすべての人のためにお祈りください。ありがとうございます」

人

信徒発見の記念劇で杉本ゆり役を演じた綾部文香さん

今年3月と8月に長崎と佐世保で上演され好評を博した、日本の信徒発見150周年記念劇「そしてサンタ・マリアがいた――キリシタン復活物語」（監督・脚本 古巣馨）。長崎中・佐世保地区の司祭・信徒らを中心に総勢70人余が役者と裏方を務め、その中で「サンタ・マリアのご像はどこですか」という重要なセリフを語る杉本ゆり役を演じた。

「教会で『何でもいいから協力して』と声を掛けられ、昨年10月に初めて集められました。恥ずかしながら、私は信徒発見のことについてよく知らなかったんです。だけどその日いただいた脚本を読んで、このセリフがすごく印象に残りました。」芝居が初めての自分に何の役が演じられるのかと思ったが、単純に「このセリフを言いたい」という気持ちから配役の際に手を上げたところ、そのまま決まった。

演じる上で、迫害の歴史やどんな思いで潜伏し信仰を守り伝えてきたのか少しでも理解を深めようと、本を読み、信徒発見のマリア像がある大浦天主堂に足を運んだ。家族が協力的で、時々、夫・哲也さんが練習を動画に撮って芝居の振り返りができるようにしてくれることも。「大変というよりは、知っていく過程が楽しかったです」

劇のメンバーは教会も世代もさまざま。「劇のために『みんな神様から集められた人たちなんだ』と思いました。もう〝同志〟ですね。それから演じる側は表舞台に出ているけれど、その裏でたくさんの人が動いていて、本当に大きい力になってくれている。お祈りや差し入れのお饅頭、応援の言葉など、霊的・物質的・精神的に応援し支えてくれる方々もいました。劇に関わったことで、神様に愛されていること、周りの人への感謝が湧き出てくることを実感でき、大きなお恵みでした」

8月、信仰の大切さ、今忘れかけているものを伝えたいと臨んだ佐世保・聖母平和祈願祭での公演。信徒発見の最後の場面では、「思いが一つになって」セリフがある人もない人もみんなが泣いた。「最初（昨年）10月に出会ったときに、こんな今があるなんて考えられなかったです。あのとき手を上げてよかった」

所属の西町教会でオルガニストとして奉仕。51歳。フェイスブック「ゆりしゃんの思い」。

みことばにふれて 121

江夏国彦神父（本原教会）

兄弟なる太陽よ、暖めておくれ

秋風に吹かれて、木の葉が散る季節になりました。平和な国の日本でも、人の心を震撼させる事件がしばしば起きています。そのような現代社会にあっては「愛」という言葉は、いろいろと使い古されて、軽々しい意味しか持たなくなったような気がします。

ある家庭の娘が言ったそうです「愛はいらない。親切がほしい」と。本当はどんな人でも「愛」がほしいのに、うわべだけの愛に傷つくことがあまりにも多いのです。このように言いたくなる気持ちは分かります。

愛犬〝愛〟の世話に余念がない奥様の話ですが、買い物へ行った先から電話で「寒いから愛ちゃんのために、ストーブをつけておいてね」と頼みごと。電話に出たご主人が「俺だって寒いんだよ」とガチャンと切ってしまったとか。なんだかどこにでもありそうな家族の対話。心も体も寒さを感じさせる笑い話です。

そんな時、ぽかぽかと暖めてくれる太陽の光のようなぬくもりが恋しくなります。聖書には「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」（マタイ5・45）と書かれています。

太陽の光は、何者をも差別しません。いや強制もしません。いやなら窓を閉めて光を遮ればよいのです。太陽の光は代償を求めません。感謝されようとされまいと与え続けます。それでいて決して尽きることがありません。少なくなったから減らしましょうということがありません。いつも惜しみなく豊かに与えてくれるのです。その恵みの活用によっては、さらに大きな実りをもたらす無限の可能性も秘めています。

このように思い巡らすと太陽の光は、神さまの温かい心、この世を照らす光として来られたキリストのいつくしみ深い愛を思い起こさせてくれます。いつの日も変わることなく豊かに注がれる主の恵みを思わずにおれません。私たちが、エネルギーいっぱいのこの光の恵みのような神の愛に感謝しながら、多くの人々にもそのぬくもりを伝えてゆく者になれますように。

＊次回からお告げのマリア修道会のシスター

「世界遺産候補教会の見学事前申し込み」のお願い

教会群の世界遺産登録の機運が高まる中、10月から大浦天主堂を除くすべての世界遺産候補教会で「見学事前申し込み」が必要となります。これは、受け入れ規模を超える見学者数を抑制することで、祈りの場である教会の品位を保ち、また教会堂を保全するための処置です。

「長崎の教会群インフォメーションセンター」を窓口として、見学者の事前予約受付が必要となる教会は以下の通りです。

①出津教会　（長崎市）
②大野教会　（長崎市）
③黒島教会　（佐世保市）
④田平教会　（平戸市）
⑤旧五輪教会（五島市）
⑥江上教会　（五島市）
⑦頭ヶ島教会（新上五島町）
⑧崎津教会　（天草市）

ご協力とご理解をお願いいたします。

教区本部事務局長　下窄英知

【長崎の教会群インフォメーションセンター】
〒850-0862
長崎市出島町1-1-205
（出島ワーフ2階）
◎原則としてホームページから申込
http://kyoukaigun.jp
◎問合せ（業務時間 9:30～17:30）
TEL 095-823-7650
FAX 095-895-9690
メール ch-info@kyoukaigun.jp
＊旧野首教会（小値賀町）の見学申し込みは「おぢかアイランドツーリズム」が窓口となります。

(医) 外尾内科医院
院長 ペトロ 外尾明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34－4
TEL0956－33－5557

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン 水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店　長崎市城栄町13-1　電話（095）846-3598
大村店　大村市民霊園内　電話（0957）50-3008

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) 栄光式典社
代表取締役　ヨハネ 西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844－4011
24時間営業　FAX(095)843－9896